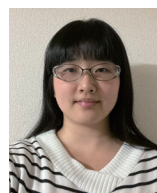


競馬好きの夫

岸本 千晶
きしもと ちあき

受賞のことば

佳作に選んで頂いたことはとても嬉しいのですが、ここに並んでしまっているのかな？ という気持ちもあります。なにせ私は、夫から「どの馬が勝つと思う？」と聞かれた時くらいしか競馬をしない半端者だからです。それでも最近楽しくなってきたので、大勢の人が熱中するだけのことにはあるすごいものなんだなと思います。競馬という、多くの人が楽しんでいる場のお話に、私も混ぜていただいてありがとうございます。

プロフィール

結婚三年目、大阪の主婦。競馬は夫の付き添いでちょっとやる程度の初心者未満。ドウラエレーデを応援しています。最近ウマ娘のアニメを全部視聴してトウカイテイオーの話で泣きました。

私は少し前まで競馬が嫌いだった。理由は夫が競馬にドはまりしたというありふれたものだ。

夫は小心者なので、ギャンブルで身を減ぼすとか、危なっかしい賭け方をするとかはしない。気に入った馬に百円かそこら賭けて、当たった外れたとキャッキヤしているだけである。ギャンブルで金を稼ぐ気はなく、馬券はレースという名のステージを見るためのチケットくらいに思っている。

生来真面目なので、私に詳しい話をして半分も通じないというのに「今日はこのレースにこういう内訳でいくら賭けようと思います」と報告してくる。強制したわけでもないのに。

かなり健全でいい遊び方をしていると思う。

じゃあ何が嫌なのかと言われれば、こう答えるよりほかはない。

うるさいのだ、と。

それというのも、ウチの夫はかなりのおしゃべり人間で、基本的にずっと喋っている。私がトイレに行っている間でもドア越しに話しかけてくる。寝言でも喋っている。言葉数だけなら明石家さんまさんをしのぐかもしれない。なにしろ夫は、ひな壇に話を振ったり収録時間を気にしたりしなくていいのだから。

と、こんな具合の人間が、競馬にドはまりしたらどうなるか。だいたいもうお分かりだろう。四六時中すごい勢いで競馬のことを語られ続けるのである。

やれどの馬が強いだの、今回のレースは熱かっただの。

この馬にはこんな面白いエピソードがあって、この馬はこの馬の息子で、この馬の息子はみんな強くて、この子はダーツが強いけど芝はいまいちで、うんぬんかんぬんうんぬんかんぬん。

しかも、夫が競馬を知ったきっかけが、馬がモデルの女の子が登場するゲーム『ウマ娘プリティーダービー』だったため、ここにゲームの話も混ざってくる。夫の推しはウイニングチケットだ。

今話しているのは馬の話なのか美少女の話なのか聞き分けるところから始めなければいけない。CGの仕上がりがすくなくて女の子の体がムチムチだ、という話だと思って聞き流していたら、よくよく注意して聞いてみると馬の馬体がいい仕上がりで筋肉がムチムチだ、という話だったりする。

ゲームの中ではこの子とこの子がライバルでそれは実際の馬のこのレースに由来するものでつまり百合でいや馬は雄なんだけどねこんなにかわいい子がもとは雄なのすくなくない？ この子の名前の由来はこれでキャラデザのここに

それが現われててどうのこうのどうのこうの。

うるせー！ という気分になるのも許してほしい。

さて、愚痴を書くのはこの辺にしておく。もちろん私とて、このおしゃべり人間が気に入っていて結婚したのだから、彼のマシニングトークに付き合いきれない、というわけではない。

むしろ、こちらはおしゃべりが得意ではないので、楽しく話して場を持たせてくれる彼の存在はとてもありがたい。そもそものが両者オタクであるという接点から仲良くなつて結婚に至っているわけで、なにか好きなものができればオタ語りモードに入る、というのは昔から分かっていた。

今までは、漫画やアニメ、ゲームなんかが主だったので、私にも多少心得があった。一緒に見て感想を言い合ったり、対戦してしのぎを削ったりして楽しく過ごしていた。

が、今回は競馬である。

私にとっては未知の領域である。

私の人生に競馬が登場するとは、夫がウマ娘プリティーダービーをスマホにインストールするまで、全く思っていなかった。

それまでは、競馬に対する私のイメージを作っていた出来事はただ一つ。お年玉をくれた祖父が「おじいちゃんに預けてくれたら倍にしてあげるよ」と持ち掛けてきて、祖

母にポカリと叩かれて怒られる。という一幕だけ。幼心に、おばあちゃんが怒るような悪い遊びなんだなあ、くらいに思っていた。

夫は、私が競馬にあまり興味を持っていないのをちゃんと察知した。

そして、対策を取った。

こういう時、一般的なご家庭であれば旦那さんは奥さんに見えないところで遊び、二人の時は二人で楽しめることをする、というのが普通なのだろう。

だが、夫は毎日のように猛烈なプレゼンをし始めた。もつと喋っちゃってもいいさと逆に考えたのである。

競馬もウマ娘も男向けだ、ということはあまり考慮に入らない。私は週刊少年ジャンプが大好きだ。

ここで少し、夫の話をしよう。

夫は子供向けのアニメやゲームを嗜むタイプのオタクで、具体的には遊戯王やデジモンを愛している。

幼少期からずつと遊び続け、遊戯王に関しては二十年以上遊び倒している。

その人生は、子供の遊びから卒業していく友人を見送ることの連続だったらしい。

まだそれやつの？ オワコンやん。最近見てないな。〇〇シリーズまではやってたわ。うわ、それまだ続いていたんや。などなど。様々な言葉とともに、子供たちはおもしろやを捨てる。

積み重なったそのフラストレーションは、現在私に向いている。

学生時代に出会い、社会人になり、結婚して……、という人生の流れの中で、どうしても忙しい時期というものはある。

ゲームやってる時間ないな。マンガ読んでる気分じゃないな。そういう時、夫はすごい勢いで抗議してくる。

もう一緒に遊んでくれないの？ と。

夫は私と趣味が合わなくなるのを恐れている。かつて遊戯王やデジモンを卒業していった元友人たちのように、私もいつかオタクではない別のものに、スカルグレイモンのように進化してしまうと懸念している。だから、その兆候が見えるたびに、私をコロモンに戻そうとする。

中でも顕著なのが私の相槌が雑な時で、私が興味ないなりに「うんうん」と聞いていると、「もつと興味持て！ さつきから「うん」しか言っていない！ 三つの言葉で返事をして！」と一昔前のボカロヒットソングのようなことを言い出すのである。

オタク仲間のはずの私が、一緒に趣味で遊んでくれない。そのことに不満を通り越して恐怖すら覚えている。そっちが先に競馬とかいうおっさんの趣味に走ったくせに。

夫は全力でもって私を競馬並びにウマ娘沼へ連れて行くと、毎日プレゼンしてくる。その気迫たるや、人間を異界へ連れ去る怪異の類にも劣らない。

「この子かわいくない？」

「この子とか好きそう」

「この馬今度のレースで一着取ったら三冠なんだって」

今までも、趣味が合わないことは何度かあった。夫はデジモンが好きだが、私はデジモンよりポケモン派だ。ポケモンと共に育ち、ポケモンと共に歩み、ポケモンと共に眠っている。

それでも、一緒にデジモンの映画を見に行ったり、逆に夫が私に合わせてポケモンの新作をプレイしたり、今まではそれなりのすり合わせができていた。

だから、今回も同じことができるはずだと夫は思っているし、私も文句を垂れつつ、心の底では同じ気持ちでいる。話を合わせる程度とはいえ、何人かのウマ娘の顔と名前を覚え、ゲームのイベントで新衣装が出れば「あら、よく似合うねえ」と近所のババアムーブをかまし、夫の語る次のレースの予想をうんうんと聞き、「もつと賭けなくてもええの？」と煽る。夫は馬たちが暮らしている牧場のTwitterアカウントをフォローしているので、馬たちの動画が流れてきたら一緒に見る。お気に入りにはメイシヨウドトウと猫のメトちゃんの動画だ。

少し前まではウイニングチケットの動画もよく見ていた。チケットが亡くなった時の夫の嘆きようはすごいもので、「いつか会いに行くつもりだったのに！」と深く後悔していた。夫は遠出があまり好きではなく、新婚旅行すらめんどくさがる出不精なので、私は少し驚いた。

競馬場にも二回遊びに行った。一度は、共通の友人たちと一緒に複数名で。もう一回は、デートと言う名目で。ギャンブルを楽しむに行った、というよりは、馬専門の動物園へ行った、という感覚に近い。

いろんな角度からコンテンツに触れてみて楽しくないことはなかった。

でもたぶん、私が競馬にどっぷりはまることはない。夫のように手に汗握りながらレースを見ることはない。

かつて夜中の三時までドラゴンボールについて語り合ったテンションで競馬に向き合う日は、おそらく私には来ない。

でもまあ、夫がたくさん話してくれるコミュニケーションツールとしては悪くないかな、と最近はある。

現に夫も、入社したての頃は話題がなくて困っていた上司と競馬の話で盛り上がりになったと喜んでいて。共通の話題があるのはいいことだ。

ウマ娘のほうは、だんだん顔と名前が一致してきた。今のところライスちゃんとマヤノちゃんとドトウちゃんを推している。

馬の見分けは、まだつかない。